

会議録

1 会議名

令和 7 年度 第 9 回中郷区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

（1）報告（公開）

なし

（2）協議（公開）

- ・新たな自主的審議事項「い～住プロジェクト」について
(第 2 回まちづくりワークショップ)
- ・自主的審議事項「中郷区型コミュニティバスのあるべき姿」について
- ・その他

3 開催日時

令和 7 年 12 月 15 日（月） 午後 6 時から午後 7 時 45 分まで

4 開催場所

中郷コミュニティプラザ ホール

5 傍聴人の数

報道 0 名 傍聴 1 名

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委 員：竹内会長、陸川副会長、岡田委員、尾崎委員、鹿島委員、桐山委員、高橋委員、竹内委員、村越委員、陸川委員（欠席 1 名）
- ・事務局：中郷区総合事務所 高波所長、金井次長、朝日市民生活・福祉グループ長（教育・文化グループ長併任）、桐山地域振興班長、更山地域振興班主事、近藤総務班長、中田総務班主事、早川税・市民生活班長、平原教育・文化班長
- ・上越市創造行政研究所：藤山所長、渡来副所長、柳澤上席研究員、丸山主任

8 発言の内容（要旨）

【桐山班長】

上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。

【竹内会長】

第9回中郷区地域協議会を開催する。

会議録の確認を桐山委員、村越委員に依頼。

前回に引き続き、上越市創造行政研究所の協力を得て、第2回まちづくりワークショップを実施する。本日は地元天気図の作成を行う。活発な意見交換を行い、次のステップへ進むことができるとよい。

協議

～第2回まちづくりワークショップ～（進行：上越市創造行政研究所）

1. ワークショップの流れの説明（藤山所長）

2. グループワーク（3チーム）

- ・地元関係図に「高気圧（強み）」、「低気圧（課題）」、「台風（今後の地域にとって新しい風を吹かす存在）」を配置。
- ・「温暖前線（強みとなる関係性が築けている）」、「寒冷前線（関係性が弱いまたは強めたい）」で団体同士を結ぶ。
- ・天気図を配置した理由を付箋に書く。
- ・「子育て支援」「若いお母さんの集いの場」「30代女性の集いの場」「定住の窓口」「働く場所」の定住を促進する拠点となる施設や団体に「★印」を配置。

【ヤングチーム】陸川副会長、岡田委員、尾崎委員、桐山委員、村越委員

【ベテランチーム】竹内会長、鹿島委員、高橋委員、竹内委員、陸川委員

【総合事務所チーム】金井次長、朝日G長、早川班長、近藤班長、平原班長、中田主事

3. 各チームで作成した「地元天気図」について発表

【ヤングチーム】

●中郷区の強み

- ・各住民団体が地域振興の担い手として活躍している。
- ・観光資源が豊富にある。

●感じられる課題

- ・泉縄文公園や岡沢拠点収蔵施設をうまく活用できるとよい。
- ・各種団体やサークルの活動内容をもっと P R できるとよい。

●今後の地域にとって新しい風をもたらしうる存在

- ・観光施設 (P R を強化し、移住定住に繋げる)
- ・農業関係の団体 (中郷のお米を P R し、農業の担い手不足解消に繋げる)

●良い関係性が築けている団体

- ・各住民団体 (様々なイベントや事業を実施している)

●関係性を強めたい団体

- ・商工・観光分野全体
- ・各分野の横の繋がり

●中郷区の気圧配置を一言でいうと

- ・子育て・教育や福祉分野に課題を感じている。
- ・「若いお母さんの集いの場」「30代女性の集いの場」が不足している。

【ペテランチーム】

●中郷区の強み

- ・各住民団体が様々なイベントや事業を実施している。
- ・地域の憩いの場となる施設がある。

●感じられる課題

- ・地域と教育施設の繋がりがより強くなるとよい。
- ・団体によっては高齢化や担い手不足の問題がある。

●今後の地域にとって新しい風をもたらしうる存在

- ・きとまる学校など (空き家対策の内容を充実できるとよい)
- ・観光施設 (施設同士の距離が近いため、うまく連携できるとよい)
- ・片貝縄文資料館 (芸術村とすることで移住定住に繋げる)

●良い関係性が築けている団体

- ・各住民団体とスポーツ・文化団体 (役員の連携等を実施している)
- ・農業関係の団体と総合事務所 (中郷のお米の P R を協力して行っている)

●関係性を強めたい団体

- ・総合事務所と教育施設、観光施設（総合事務所が主体となって連携の強化や地域のPRが実施できるとよい）

●中郷区の気圧配置を一言でいうと

- ・活用できる資源は豊富だが、団体同士が上手く繋がっていない。
- ・「春が来る」ことが期待できる。

【総合事務所チーム】

●中郷区の強み

- ・他区にはない特色を持った住民団体がある。
- ・各種イベントなどを通じて世代間交流ができている。

●感じられる課題

- ・各施設の利用者、入館者が少ない。
- ・団体によっては少子化により会が成り立たないケースがある。

●今後の地域にとって新しい風をもたらしうる存在

- ・地域の憩いの場（区内外問わず人々の交流の場となるとよい）
- ・さとまる学校など（様々な分野で活躍しているため、台風の目となることで中郷区がより発展していくことができる）

●良い関係性が築けている団体

- ・各住民団体とスポーツ・文化団体（まちづくりの視点からスポーツ振興に取組んでいる）
- ・駅と地域の憩いの場（区外からの集客を見込める）

●関係性を強めたい団体

- ・地域の憩いの場と各種団体（団体の集まる場として活用できるとよい）
- ・片貝縄文資料館と泉縄文公園（連携がうまくいけば「縄文文化」をPRできる）

●中郷区の気圧配置を一言でいうと

- ・魅力的な資源が多い。
- ・高気圧が広く張り出しており、「日本海でも太平洋高気圧」。

4. 講評とまとめ、次回のワークショップについて説明（藤山所長）

～自主的審議事項「中郷区型コミュニティバスのあるべき姿」～

【竹内会長】

上越市創造行政研究所はここで退席とする。

自主的審議事項「中郷区型コミュニティバスのあるべき姿」については、資料No.1・2が事前配布された。事務局から補足等はあるか。

【桐山班長】

資料No.1・2について補足等はなし。

「さくら号」の運行について、中学生保護者からの要望を受け、遠距離通学支援の対象生徒の通学用運行を開始することになった。

対象者は、片貝方面9人、岡沢方面13人であったが、利用希望を対象保護者に確認したところ、片貝方面7人、岡沢方面11人が「さくら号」での通学を希望した。片貝方面では、小学生のスクールバス運行との調整を図り、スクールバスの空席を活用する形で、小学生と同じスクールバスを利用して通学できることとした。岡沢方面では、11人の希望があったため、「さくら号」を2往復運行することとした。これにより、中学校の登校時間である午前7時30分から午前8時10分までに、学校に到着する運行が可能になった。

岡沢方面は17日（水）、片貝方面は18日（木）からの運行開始で、保護者への案内を行った。

【岡田委員】

事務局からの説明のとおり、保護者との話し合いの結果、岡沢方面で2便、片貝方面1便、中学校生徒の通学用に運行を行うことになったのでご承知おきいただきたい。

【竹内会長】

「さくら号」の運行は、令和4年度に実施した全世帯アンケートの結果を基に始まった事業である。今後、高齢者の支援だけでなく、子どもたちの通学支援も必要となる。子どもの人口減少やクマの目撃数の増加等を考慮し、自宅と学校の距離に関わらず通学支援を行えるようになるとよい。

「い～場所開設事業」については、だんだんと参加者が増えている状態。見守り者の確保や送迎の手配について、まちづくり振興会が苦慮している。委員の皆さんからも見守りにご協力いただきたい。

【陸川委員】

12月17日（水）は参加者が38人、その内22人が自宅までの送りを希望している。リース車両1台、「さくら号」、まちづくり振興会所有の軽自動車1台の3

台で対応する。今後冬を迎える、天候により道路の状況が悪くなることが想定される。午後 6 時までには自宅まで送り届けることができるよう、出発時間を調整していく。12 月 17 日（水）は午後 1 時からの実施となるため、適宜休憩時間を設けようと思う。

【竹内会長】

さとまる学校で 12 月 20 日（土）に実施する「こ食」事業では、32 名が参加する予定。「い～場所開設事業」と同様に小学校 1 年生の参加が多いため、見守り体制の強化が必要。「『こ食』事業」や「い～場所開設事業」について、保護者からありがたいという声を聞いている。

さとまる学校の「空き家相談窓口事業」で総合事務所と月 1 回打合せを実施し、危険家屋等のデータを共有している。子どもたちに危険を及ぼすような空き家について、気づいた点があれば教えていただきたい。住める空き家の情報収集や購入希望者とのマッチングについてもこれから検討していきたい。

その他、質問・意見はあるか。

【高橋委員】

12 月 14 日（日）、板倉区で開催された「地区まち交流会」に参加した。板倉区でのまちづくりワークショップを通して導き出された 6 本の柱について発表があった。6 本の柱を今後どのように実行していくのかが気になった。中郷区でもまちづくりワークショップ終了後に 3 本の柱をどのようにまとめて進めていくか考えていく必要がある。

【竹内会長】

牧区では U ターン者、大島区では移住者が定住支援コーディネーターとして外部から見た目線で、SNS を活用しながら区内の PR を実施していた。区にとつては新しい風になっていると感じた。

板倉区のまちづくりワークショップの発表会では、様々な取組み案が出されていたが、実行団体が不明確であった。若手が主導し、取組みが実行できるとよいと思った。各種団体が連携し、まちづくり振興会を支えていけるような体制になることが理想。

以上で本日の地域協議会は終了とする。

9 問合わせ先

中郷区総合事務所 総務・地域振興グループ

TEL : 0255-74-2411 (内線 165) E-mail : nakago-soumu.g@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。